

<p>学校教育目標</p>	<p>人間性豊かで 創造性に富み たくましく生きる子どもを育成する</p>	<p>『両極の調和』 ～ 融合と軽重の選択 ～</p> <p>【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に、工夫・追求・徹底・協働によって新たな価値を創造する学校 【めざす児童像】何事も自ら進んで「正しく 強く 優しく 永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】笑顔を決やさず子どもに寄り添い、子どもの思いに共感する教職員</p>
---------------	---------------------------------------	---

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	自己評価				学校関係者評価			改善方策	担当分掌部	担当者	
					10月	2月	達成度	評価	結果と課題の分析(○成果▲課題)	評価					
					達成値	達成値				適正	不適正				分からない
<p>【主体的な学び】 自ら進んで学ぶことで、学ぶ楽しさを味わい、学力を高めていく児童の姿</p>	<p>「学びの変革」パイロット校としての研究成果を着実に実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫により、独創スピリッツ(課題発見力・追求力・評価力)を引き出す 	<ul style="list-style-type: none"> CRTの達成度(活用) 正答率30%未満児童の解消 	<p>低75% 中70% 高70%</p> <p>H29年度の半数以下</p>	-	-	-	-	<p>○10月で約半数の教員が、各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫を図り、研究授業を行った。12月末には全員が研究授業を行う予定である。研究授業では、「課題発見・解決学習」の単元構成や独創スピリッツを引き出す授業構成の工夫により、児童は主体的・対話的に学習を進め、学びを深めることができた。 ▲日常の授業でも独創スピリッツを引き出す授業構成の工夫を行い、児童の独創スピリッツをさらに高める。</p>					<p>森田</p> <p>教務部</p> <p>菅</p>	<p>森田</p>
	<p>「自学」を奨励し、進んで学ぶ意欲や態度を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学びんピック」一人1チャレンジの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びんピック」一人1チャレンジ自己満足度 	<p>95%</p>	<p>自己満足度89%</p>	94%	B	<p>○ノート交流に向けて、自学をいつも以上に丁寧に取り組む児童が多かった。また、90%の児童が「ノート交流で友達のノートを見るのは、自分の自学に役に立った」と回答している。これらのことから、「学びんピック」を行うことにより、児童の自学への意識を高めることができた。と考える。 ▲「ノート交流で学んだことを自分の自学に取り入れた。」と回答した児童は、73%であった。「学びんピック」で学んだことを、日常の自学に生かす指導を行っていく必要がある。</p>							
<p>【進んで行動し共に育つ】 進んで協力し、助け合い認め合うことで、自分や友達の成長を実感する児童の姿</p>	<p>友達の良さに気付き、仲間を大切に育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「友達のいいところ見つけ」の実施 読書・家庭読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 自分には良いところがある 友達に薦めたい本がある 	<p>肯定的評価95%</p> <p>90%</p>	<p>肯定的評価93%</p> <p>80%</p>	98%	B	<p>○「友達のいいところ見つけ」の取組を行い、全ての児童の良さを肯定することができた。また、取組期間以外にも朝の会などで継続して行ったり、教師が児童の良い所を意識して褒めたりするようにした。この取り組みにより、児童が自分のよさに気づくことができ、自己肯定感を高めることができた。 ▲自分の良さを認められなかったり、気づいていない児童が各クラスに数名いる。 ○図書委員会を中心に付箋づくりや読書の花づくり、保護者ボランティアや親子読書など読書を推進する取組を積極的に行った。 ▲学年の実態に応じた「友達に本を薦める」活動を行うことの児童への周知が、学年や学級によって差があった。</p>					<p>生徒指導部</p> <p>細川</p>	<p>細川</p>	
	<p>自ら進んで物事に取り組んだことを実感させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「三つの無言」の徹底(移動・集合・掃除) 自分からあいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 「三つの無言」達成率 自分から西条あいさつする児童 	<p>自己評価率95%</p> <p>自己評価率90%</p>	<p>自己評価率93%</p> <p>自己評価率93%</p>	98%	B	<p>○生活委員会や美化委員会、環境委員が「3つの無言」の徹底に向けて工夫を凝らした活動を行ったことや、教職員が意識統一して「3つの無言徹底」に取り組んだことで、「3つの無言」が児童に定着してきた。 ○「白壁の街」の取組により、礼儀やあいさつ、3つの無言が6年生に身につく、下学年の良きお手本となっている。 ▲「あいさつ」「3つの無言」両方とも、時期や教職員がいない所では徹底できていない実態がある。何のために「3つの無言」や「あいさつ」をする必要があるのか、児童への意識づけを行う必要がある。</p>							
<p>【進んで鍛える】 自ら設定した目標を達成する喜びを実感する児童の姿</p>	<p>休憩時間に思いきり外で遊ぶ子を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励と意欲を引き出す場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊び児童数 新体力テスト(県との平均値比較) 	<p>定点観測平均555人</p> <p>上回り項目2/3以上</p>	<p>定点観測平均510人</p> <p>上回り項目2/3以上</p>	92%	B	<p>○高台トッソボール大会に向けた練習の場の設定により、期間中は平均800人以上の外遊び児童数を記録することができた。大会後も、外遊び児童数は600人以上であり、外遊びの習慣化が図られている。 ○新体力テスト108項目中75項目であった。新体力テスト実施に向けた学年の練習が主な要因であると考えられる。 ▲外遊びの取り組みをしていない期間中は、外遊び児童数が500人を下回った。学級担任と連携を図りながら毎月1回の継続的な取り組みをしていく必要がある。 ▲「50m走」「ボール投げ」に課題が見られる。全体での取り組みだけでなく、学年単位での取り組みが必要である。学年ごとに一つの項目を決め取り組む「体力向上プログラム」を行い</p>					<p>保健安全給食部</p> <p>橘</p>	<p>橘</p>	
	<p>自ら進んで健康づくりに取り組む実践力を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実践を認め励ましていく評価場面の設定と工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 続けて実践したことが言える児童 	<p>90%</p>	<p>89%</p>	99%	B	<p>○健康に関する取り組み「けんこうもりもり大作戦①」を行うことにより、健康づくりに続けて実践する児童が増加した。 ▲期間後に、健康づくりに続けて実践する児童の割合は、77%であった。期間後でも自ら進んで健康づくりに取り組むために、評価場面の設定と工夫を再検討する必要がある。(学校全体でよい児童の紹介など)</p>							
<p>【ふるさとを愛する】 西条小・西条町に誇りと愛情をもつ児童の姿</p>	<p>生活科・総合的な学習の時間の、系統的な学びを推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開発単元における体験活動の工夫・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 学校大好き 西条への愛着 	<p>「学校大好き」肯定的回答率95%</p> <p>「西条への愛着」肯定的回答率95%</p>	<p>肯定的回答率94%</p> <p>肯定的回答率89%</p>	98%	B	<p>○生活科・総合的な学習の時間において、昨年度までに行っていた学校や地域を教材として取り上げた単元を見直し、児童の実態に合わせて流れを修正しながら学習を進めることができた。 ○新たな人材の発掘を行ったり、活動方法を変更したりすることで、より充実した学習になった。 ▲第3学年の総合的な学習の時間をさらに充実させるために、新たな単元を開発していく必要がある。</p>					<p>研修部</p> <p>森田</p>	<p>森田</p>	